

## 資料①

## 成瀬ダムの治水効果を算出した計算資料

洪水名 <sup>※1</sup>	降雨型	実績規模（降雨実績）における効果率（推定）			
		榕川地点の推定流量 (m <sup>3</sup> /s) <sup>※2</sup>		効果流量 (m <sup>3</sup> /s)	効果率（%）
		成瀬ダムなし ①	成瀬ダムあり ②	③=①-②	④=③/①
S19.07	全流域型	6,171	6,076	95	1.5%
S22.07	全流域型	8,497	8,470	27	0.3%
S22.08	全流域型	4,035	4,031	5	0.1%
S30.06	全流域型	3,984	3,944	40	1.0%
S40.07	全流域型	2,861	2,853	8	0.3%
S41.07	玉川流域型	2,267	2,263	4	0.2%
S44.07	本川上流域型	4,579	4,506	73	1.6%
S47.07	玉川流域型	3,758	3,752	7	0.2%
S54.08	玉川流域型	2,467	2,437	29	1.2%
S56.08	本川上流域型	3,076	2,930	146	4.7%
S62.08	全流域型	3,833	3,738	95	2.5%
H14.08	玉川流域型	3,172	3,160	12	0.4%
H19.09	玉川流域型	4,460	4,456	4	0.1%

※1 「雄物川水系河川整備基本方針」において検討の対象とした平成18年までの12洪水と、平成19年以降に榕川地点において、はん濫注意水位を超えた1洪水を対象とした。

※2 榕川地点の流量は、実績洪水時の降雨の地域・時間分布の違いのみに着目し、その他の条件については、全て同一と仮定したうえで、河道のはん濫がない状態で現時点の既設6ダムがあったものとして算定した推定値である。